



アスミック®

JIS A 6021 高強度&高伸張形 建築用ウレタン塗膜防水材
特定化学物質無配合（労働安全衛生法施行令）
F☆☆☆☆登録品

免責事項：シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dyflex.co.jp/cosmic/>にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年 10月版
(23.10月現在) 24.02.1.000 SJ



高伸張・高強度ウレタン塗膜防水材料

アスミック®NB



当社は、長年にわたる研究開発により高強度で高耐久の超速硬化ウレタンの先駆者として塗膜防水材料を市場に供給してまいりました。

この度、高性能の手塗ウレタン塗膜防水材料「アスミックNB」を開発しました。

〈アスミックNBの特長〉

- 機械施工による超速硬化ウレタン塗膜防水材料でしか得られなかった高物性を実現。
- JIS A6021 建築用ウレタン塗膜防水材料の高強度形と高伸張形の物性を保有。
- 特定化学物質無配合。
- トルエン・キシレン無配合（TXフリー）。
- ノンブリード型のため高耐候な防水層を形成。

アスミックNBと各種下塗り材や上塗り材および通気緩衝シートや補強布（クロス）との組合せにより、様々な防水下地や使用用途に対応した高機能の防水層を提供できます。

INDEX

アスミック製品の特長	3
工法仕様	7
各種露出防水改修工法	7
露出アスファルト防水改修工法	7
塩ビシート防水改修工法	8
ゴムシート防水改修工法	9
FRP 防水改修工法	10
保護密着防水工法	11
屋外保護密着防水工法	11
室内保護密着防水工法	13
密着工法	14
一般密着工法	14
共通立上り工法	14
通気緩衝工法	15
CM マット K	15
CM 通気クロス	15
CA マット SB	16
公共建築工事標準仕様	17
納まり図例	19
施工方法	21
露出アスファルト防水下地の場合	21
塩ビシート防水下地の場合	22
ゴムシート防水下地の場合	23
FRP 防水下地の場合	24
室内保護密着防水の場合	25
防水施工条件	27
各工法施工上および 仕上りに関する注意事項	29
製品紹介	31
使用上の注意事項／メンテナンス／保証	35
製品一覧	37

アスミックNB

配合比 主剤：硬化剤＝1：1（重量比）

- 特徴
- 主剤と硬化剤を混合攪拌して防水層を形成する2成分形ノンブリードのカラーウレタン。
 - 高強度形の強度で且つ高伸張形の伸びを有した防水性能・耐久性に優れたウレタン塗膜防水材です。

アスミックNB立上り用

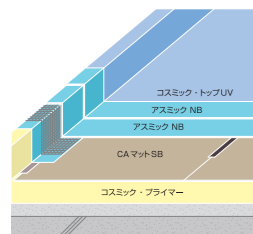
配合比 主剤：硬化剤＝1：1（重量比）

- 特徴
- 主剤と硬化剤を混合攪拌して防水層を形成する2成分形ノンブリードのカラーウレタン。
 - たれ抵抗性（チクソ性）が高く、立上り面でもダレにくく厚みを確保できます。

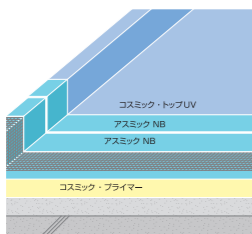
通気緩衝工法

密着工法

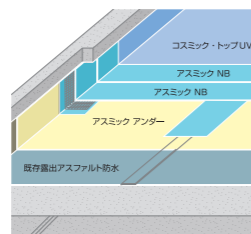
保護コンクリート下地



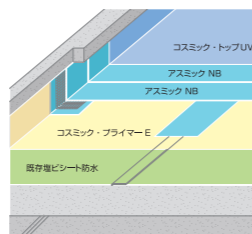
コンクリート下地



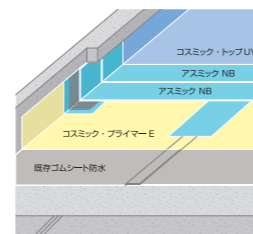
露出アスファルト下地



塩ビシート下地



ゴムシート下地



通気性能を有するシートを全面接着させた上にウレタン塗膜防水を塗布する防水工法。膨れの原因となる下地水分（水蒸気）を通気させ、脱気筒から排出し、膨れにくい構造です。また、シートの緩衝効果により下地クラックの挙動に追随し、防水層が破断しにくい構造です。▶詳細は14ページへ

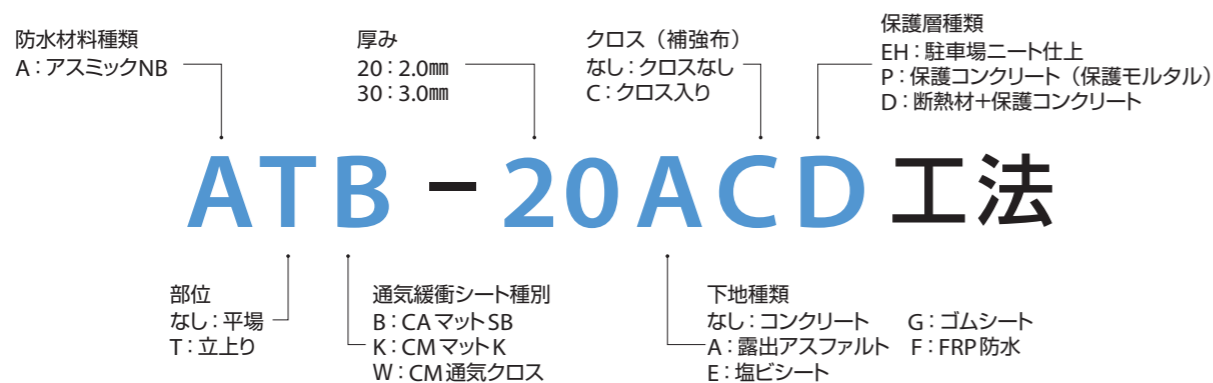
下地に直接ウレタン塗膜防水材を塗布する防水工法です。露出工法のみならず、納まりの良さと耐水・耐温水性を生かした狭小部位や複雑な形状部位、および室内防水等の保護コンクリートを施す用途に耐久性の高い防水層を実現します。▶詳細は12ページへ

露出アスファルト防水層下地に直接ウレタン塗膜防水材を塗布する防水工法です。アスファルトとの接着性と仮防水機能を有したアスファルトウレタン「アスミックアンダー」によって、既存の露出アスファルト防水層とシームレスなウレタン塗膜防水層が一体化し、複合的な防水層となります。▶詳細は7ページへ

塩ビシート防水層下地に直接ウレタン塗膜防水材を塗布する防水工法です。塩ビシートとの接着性を有したプライマーによって、既存の塩ビシート防水層とシームレスなウレタン塗膜防水層が一体化し、複合的な防水層となります。▶詳細は8ページへ

ゴムシート防水層下地に直接ウレタン塗膜防水材を塗布する防水工法です。ゴムシートおよびゴムシート用トップコートとの接着性を有したプライマーによって、既存のゴムシート防水層とシームレスなウレタン塗膜防水層が一体化し、複合的な防水層となります。▶詳細は9ページへ

アスミック®工法記号説明



アスミック®工法一覧

工法分類	適用下地および用途	通気緩衝シート種別	補強布（クロス）有無	換算塗膜厚（mm）	工法名				
露出仕様	平場	—	—	2.0	A-20A				
				3.0	A-30A				
				2.0	A-20E				
				3.0	A-30E				
保護密着仕様	平場	—	—	2.0	A-20F				
				3.0	A-30F				
				2.0	A-20P				
				LSメッシュ	2.0	A-20CP			
				—	3.0	A-30P			
				LSメッシュ	3.0	A-30CP			
				—	3.0	A-30D			
				LSメッシュ	3.0	A-30CD			
				—	4.0	A-40P			
				LSメッシュ	4.0	A-40CP			
				LSメッシュ	4.0	A-40CD			
				露出仕様	立上り	—	—	2.0	AT-20P
3.0	AT-30P								
LSメッシュ	2.0	AT-20CP							
3.0	AT-30CP								
—	2.0	AT-20							
LSメッシュ	2.0	AT-20C							
3.0	AT-30C								
—	2.0	AT-20A							
LSメッシュ	2.0	AT-20AC							
—	2.0	AT-20E							
LSメッシュ	2.0	AT-20EC							
—	2.0	AT-20G							
LSメッシュ	2.0	AT-20GC							
公共建築工事標準仕様	平場	—	—	3.0	ABX-1				
				3.0	AKX-1				
	立上り			2.0	ATX-2				
				2.0	ATX-2				
露出仕様	平場	—	—	2.0	AB-20				
				3.0	AB-30				
				2.0	AK-20				
				3.0	AK-30				
				2.0	AW-20				
				3.0	AW-30				
	立上り			コンクリート又はモルタル（既存撤去後）	—	—	2.0	A-20	
							3.0	A-30	
							LSメッシュ	2.0	A-20C
							3.0	A-30C	
							2.0	AT-20	
							LSメッシュ	2.0	AT-20C

高伸張・高強度形ノンブリードウレタン塗膜防水材

アスミック®NB

アスミックNBは、業界初 JIS A 6021 の高伸張形の伸びと高強度形の強度を持った手塗タイプの特長化学物質を含まない建築用ウレタン塗膜防水材です。汎用的に使用されている可塑剤をまったく使用しないノンブリードタイプのため、露出仕様でのトップコートの耐久性を格段に向上させ、発泡ポリスチレン断熱材をも侵しません。またアルカリ温水に対しても優れた耐久性を持った材料なので、汎用のウレタン塗膜防水材では適用できない様々な部位や用途に対応できます。

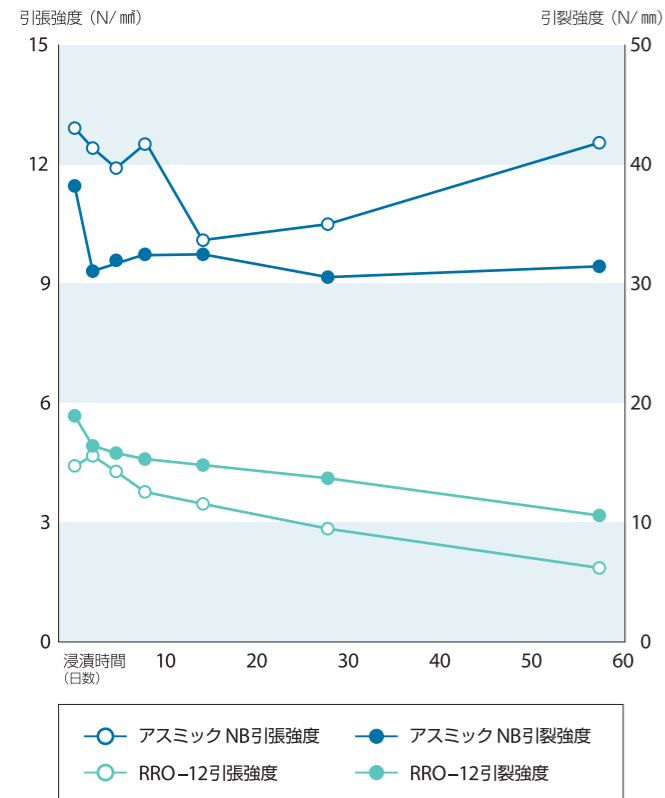
基本物性 (代表値)

項目	温度 (°C)	アスミックNB	建築用ウレタン塗膜防水材 JIS A 6021:2022 規格	
			高伸張形	高強度形
引張強度 (N/mm ²)	23	12.5	2.3以上	10.0以上
	-20	23.8	2.3以上	10.0以上
	60	8.3	1.4以上	6.0以上
伸び率 (%)	23	710	450以上	200以上
抗張積 (N/mm)	23	1780	280以上	700以上
引裂強度 (N/mm)	23	39	14以上	30以上
硬度 (タイプA)	23	67	-	-

耐飽和アルカリ温水 (60°C) 浸漬試験結果

一般的な汎用2成分形ウレタンとアスミックNBの供試体を60°Cの水酸化カルシウムの飽和溶液に浸漬させて物性の変化を測定した。その結果、2ヶ月経過した時点で初期値に対し汎用2成分形ウレタンは、引張強度で41%、引裂強度で56%に低下したがアスミックNBは、引張強度で96%、引裂強度で86%の物性を保持していた。アスミックNBのアルカリ温水に対する耐久性が確認できた。

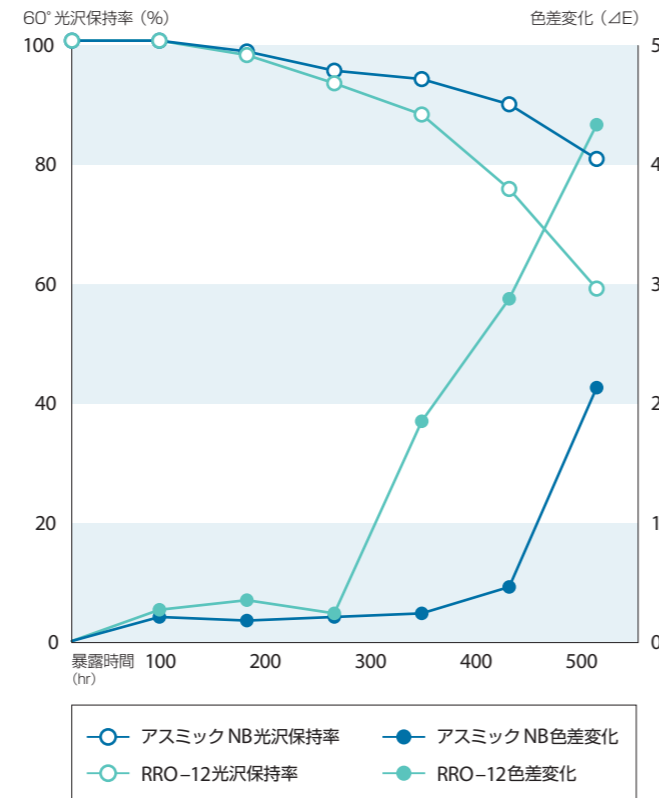
耐飽和アルカリ温水 (60°C) 性能比較



促進耐候性試験結果

一般的な汎用2成分形ウレタンと、アスミックNBに高日射反射塗料「コスミック・トップUV」のライトグレーを0.2kg/m²を塗布した供試体を試験した。同じトップコートを使用した供試体でも、汎用2成分形ウレタンは約300時間で色差変化ΔEが2.0近く変化しているのに対し、アスミックNBは約400時間でも色差変化ΔEが0.5と変色し難いことが確認された。汎用2成分形ウレタンは約300時間で60°光沢保持率が90%を下回るのに対し、アスミックNBは約400時間で光沢保持率が90%となった。

耐候性比較 (光沢保持率/色差変化)



ウレタン+アスファルト ハイブリッド塗膜材

アスミック®アンダー

従来は露出アスファルト防水やアスファルトコンクリートなどのアスファルト系下地の場合、直接ウレタン塗膜防水材を塗布することが出来ず、ポリマーセメントモルタルなどによる下地処理 (絶縁処理) が必要でした。しかしながら、温度上昇に伴い軟化するアスファルト下地に対し、剛性の強いポリマーセメントモルタルの層間で剥離する事例も見受けられます。アスミックアンダーは弾性を有した性状のため、アスファルトの温度変化による軟化や脆化にも追従します。ウレタン塗膜防水材とも完全に一体化する今までにないウレタン+アスファルトのハイブリッド塗膜材です。

アスファルト系下地への接着性

露出アスファルト防水に直接塗膜防水を塗布する際に想定されるアスファルト系下地に対してのアスミックアンダーの接着力を180°はく離試験にて実施した。結果、比較として試験を行った防水工事用アスファルト3種と同等の接着力が確認された。また砂付ルーフィング下地に対しては、砂を固着しているルーフィングのアスファルトコンパウンドまで流れ込み接着していることが確認された。

アスファルト系下地とアスファルト及びアスミックアンダーとの接着性能比較 (強度:N/25mm)

下地	アスファルトプライマー		防水工事用アスファルト3種		砂付ルーフィング	
写真						
上塗	アスファルト3種	アスミックアンダー	アスファルト3種	アスミックアンダー	アスファルト3種	アスミックアンダー
強度	21	36	34	22	27	24
試験後写真						

アスミックアンダーへの接着性

露出アスファルト防水に施工されたアスミックアンダーとアスミックNBとの接着力を180°はく離試験にて実施した。比較として試験を行った防水工事用アスファルト3種およびアスファルト系活性材に対するアスミックNBとの接着力も同一試験を実施した。その結果、防水工事用アスファルト3種やアスファルト系活性材にアスミックNBは、全く接着しないがアスミックアンダーに対しては、汎用ウレタン塗膜防水材と同等の接着力が確認できた。

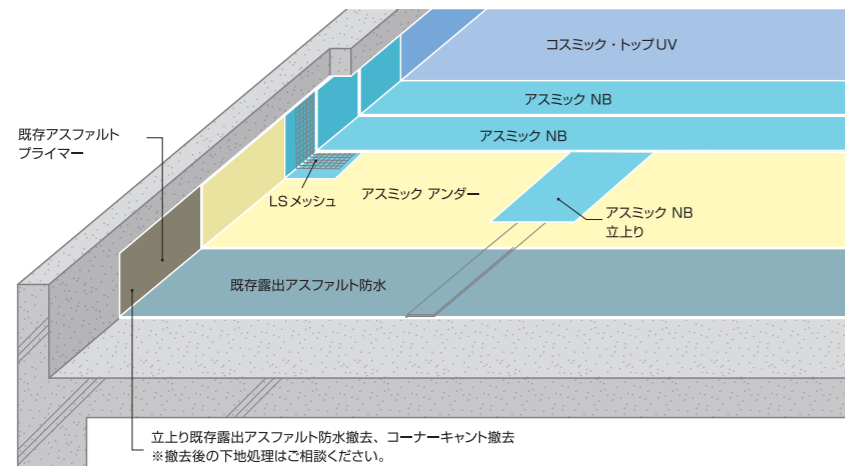
アスファルト系調整材とウレタンゴム系塗膜防水材との接着性能比較 (強度:N/25mm)

下地	防水工事用アスファルト3種	アスファルト活性材	アスミックアンダー
写真			
上塗	アスミックNB	アスミックNB	アスミックNB
強度	0	9	121
試験後写真			

露出アスファルト防水改修工法

従来の汎用ウレタン塗膜防水では既存が露出アスファルト防水の場合、直接施工することが出来ませんでした。

アスミックでの露出アスファルト防水改修工法は、常温施工の塗膜材でありながらアスファルト系の下地に接着する「アスミックアンダー」とノンブリードタイプの高伸張形・高強度形ウレタン塗膜防水材「アスミックNB」、高日射反射率で且つ隠蔽性に優れた「コスミック・トップUV」との組合せによって、露出アスファルト防水層が完全シームレスなウレタン塗膜防水に生まれ変わります。



A-20A工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	アスミックアンダー	0.4kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡
4	アスミックNB	1.2kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

A-30A工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	アスミックアンダー	0.4kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡
4	アスミックNB	1.8kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

AT-20A工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	アスミックアンダー	0.3kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

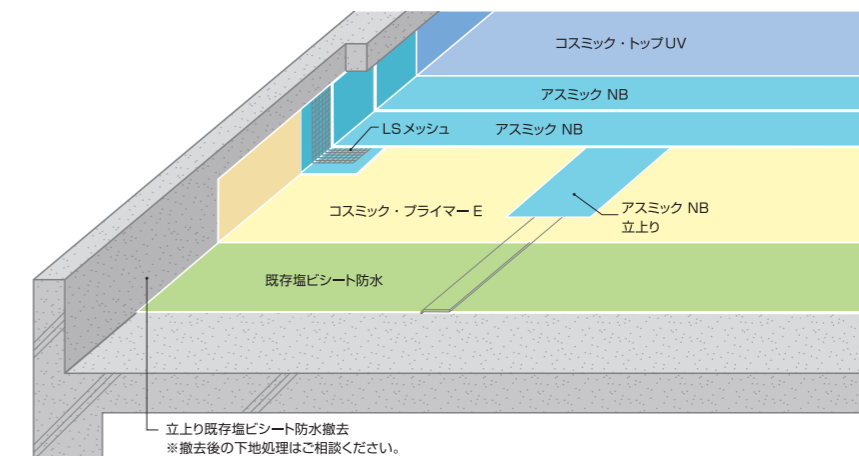
AT-20AC工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	アスミックアンダー	0.3kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

塩ビシート防水改修工法

既存が塩ビシート防水の場合の防水改修工事は、新たに塩ビシートを機械固定にて改修する工法が一般的です。

その場合、既存の塩ビシートは機械固定治具の設置に伴い貫通され防水機能を果たさなくなり、新たに施工する塩ビシート単体の防水機能となります。これに対しアスミック塩ビシート改修工法は、既存の塩ビシート防水層の経年劣化による接合破断や剥離部にもアスミックウレタン防水材が充填・補強されます。更に既存の塩ビシート防水層と一体化したアスミック塗膜防水層がオーバーレイされることで、信頼性の高いシームレスな防水層に生まれ変わります。



A-20E工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー E	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡
4	アスミックNB	1.2kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

A-30E工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー E	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡
4	アスミックNB	1.8kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

AT-20E工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

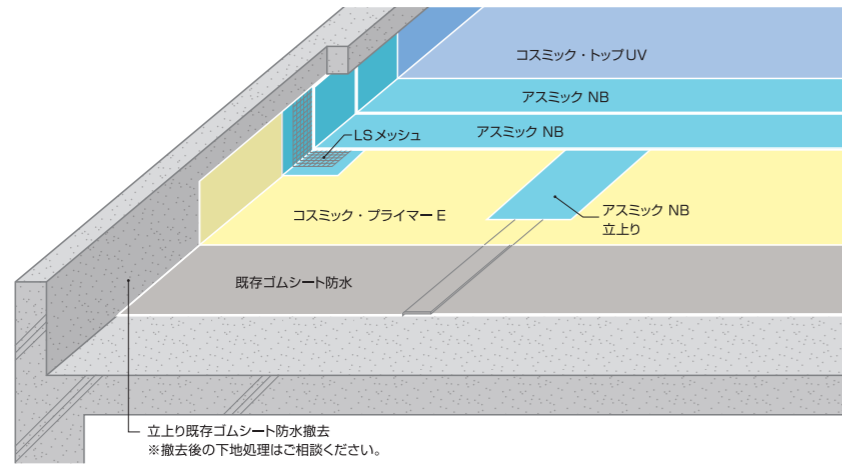
AT-20EC工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

ゴムシート防水改修工法

従来は、既存がゴムシート防水の場合の防水改修工事は、加硫ゴムシートへの接着力を確保することが難しく、下地との接着力が良好な場合でも撤去が前提でした。ジョイント部を増塗することでラップ部も補強され、アスミック塗膜防水層がオーバーレイされることで、既存のゴムシートと一体化した、信頼性の高いシームレスな防水層に生まれ変わります。



A-20G工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー E	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡
4	アスミックNB	1.2kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

A-30G工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー E	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用 (ジョイント部増し塗)	0.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡
4	アスミックNB	1.8kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

AT-20G工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

※プライマーは下地状況により選定してください。

AT-20GC工法（立上り）

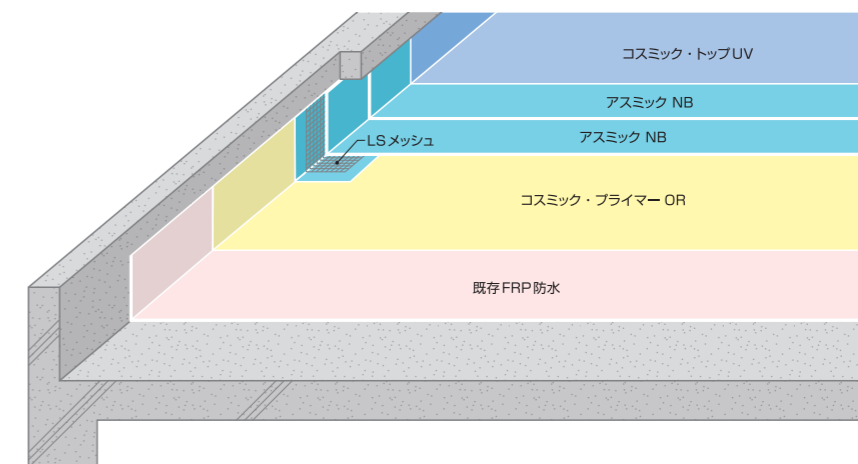
工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB 立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

※プライマーは下地状況により選定してください。

FRP防水改修工法

戸建住宅のベランダや浴室の防水には従来よりFRP防水が多く採用されていますが、その改修をFRP防水で施工する場合、施工中にスチレンモノマーが揮発し、特有の異臭が防水工事施工後まで残ります。

また接着力を確保するため、既存FRP防水の表面を研磨する際の粉塵の発生など、居住しながらの改修においてFUプライマーは表面を目粗して清掃することで、既存FRP防水層とアスミックウレタン防水層とを一体化させることが可能であるため、施工上の制約を最小限に抑えることができます。



A-20F工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	FUプライマー	0.15kg/㎡
2	アスミックNB	1.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

A-30F工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	FUプライマー	0.15kg/㎡
2	アスミックNB	1.8kg/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

AT-20F工法（立上り）

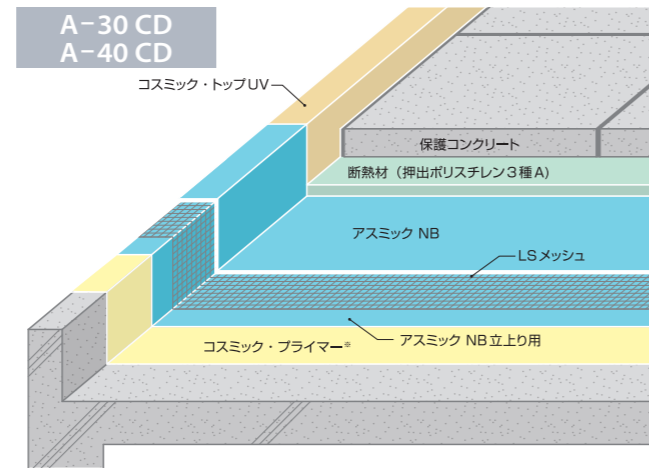
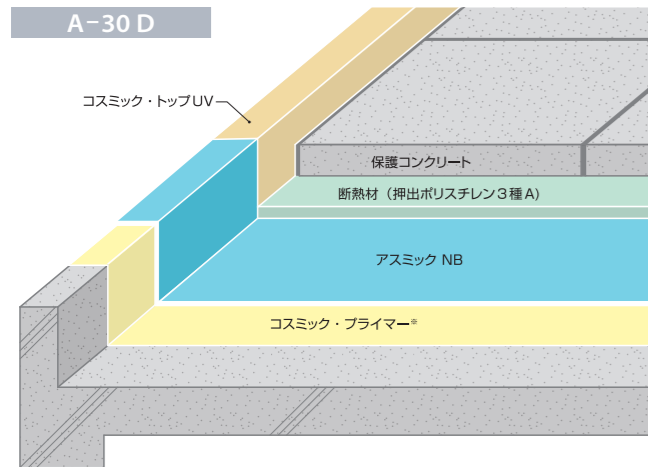
工程	使用材料	使用量
1	FUプライマー	0.15kg/㎡
2	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB 立上り用	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

AT-20FC工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	FUプライマー	0.15kg/㎡
2	アスミックNB 立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB 立上り用	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

屋外保護密着防水工法

防水層に保護コンクリートを打設する場合の一般的な防水仕様は、アスファルト防水となっています。しかしアスファルトは熱可塑性の性状から夏期には軟化し、流動性を持ち、下地との接着強度も弱まります。そのため下地からの水蒸気による防水層の膨れを抑えるため、保護コンクリートの加重（厚み）が必要となります。また、立上り部では、自重によってダレ易く、それを防止するための端末押え金物が必須となっています。アスミック防水工法は、JIS A 6021 高強度形の物性と高い耐アルカリ温水性能によって、高温時においても高い接着力を保持し、長期的に防水性能を担保します。最近では次世代省エネルギー基準の熱抵抗値により、地域別で求められる断熱材の厚さが大幅に厚くなりました。



A-30D工法またはA-30P工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	1.8kg/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

AT-20工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

A-30CD工法またはA-30CP工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB	1.6kg/㎡
5	アスミックNB	1.6kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

AT-20C工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

A-40CD工法またはA-40CP工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB	1.5kg/㎡
5	アスミックNB	1.5kg/㎡
6	アスミックNB	1.4kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

AT-30C工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB立上り用	1.1kg/㎡
5	アスミックNB立上り用	1.1kg/㎡
6	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
7	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

外皮性能基準

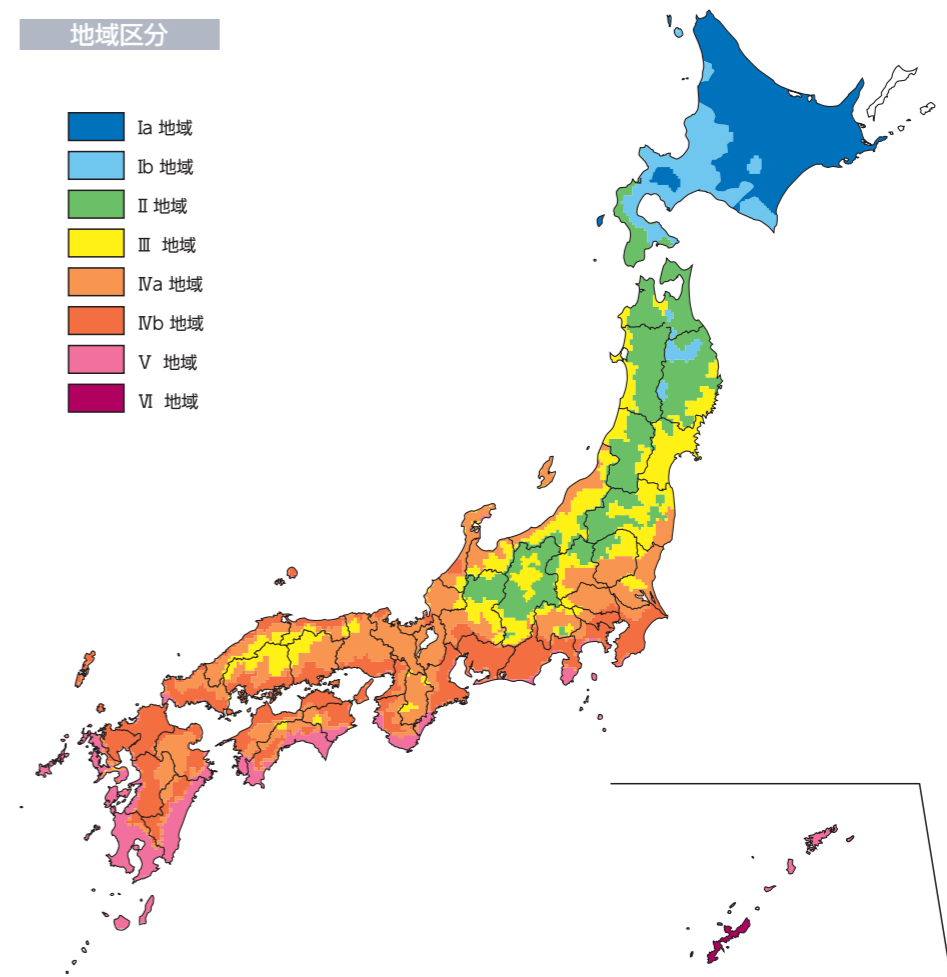
地域区分	外皮平均熱貫流率の基準値 [W/(㎡・k)]	A種押し出し法ポリスチレン フォーム保温板3種厚み (mm)
1	0.46	60
2	0.46	60
3	0.56	50
4	0.75	40
5	0.87	35
6	0.87	35
7	0.87	35
8	-	-

住宅の（改正）省エネルギー基準 国土交通省 住宅局

平成25年10月1日施工

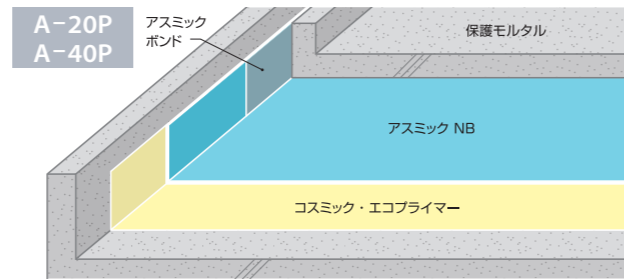
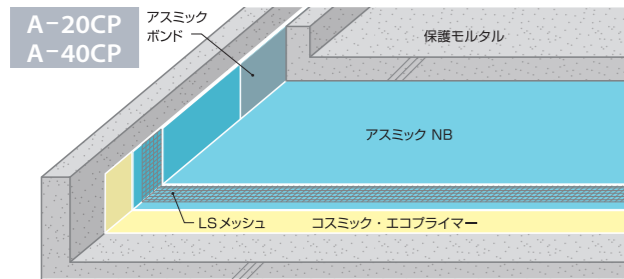
地域区分

- Ia 地域
- Ib 地域
- II 地域
- III 地域
- IVa 地域
- IVb 地域
- V 地域
- VI 地域



室内保護密着防水工法

従来の室内防水は、アスファルト防水を施工した後に保護モルタルを打設する工法がほとんどでした。その理由は保護モルタルに含浸した水が、乾燥することなく防水層の上に常時滞留するからです。したがって室内防水の防水層は、モルタルのアルカリ分が含まれた水や温水に対する長期の耐久性が求められます。アルカリ温水に対して耐久性の高いアスミック NB は、室内防水の施工性と信頼を高めます。



A-20P工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	1.2kg/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡

A-20CP工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB	1.0kg/㎡
5	アスミックNB	1.0kg/㎡

A-40P工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	1.6kg/㎡
3	アスミックNB	1.6kg/㎡
4	アスミックNB	1.6kg/㎡

A-40CP工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB	1.5kg/㎡
5	アスミックNB	1.5kg/㎡
6	アスミックNB	1.4kg/㎡

AT-20P工法（立上り※）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
4	アスミックボンド	0.25kg/㎡

AT-20CP工法（立上り※）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
5	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
6	アスミックボンド	0.25kg/㎡

AT-30P工法（立上り※）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
3	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
4	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡
5	アスミックボンド	0.25kg/㎡

AT-30CP工法（立上り※）

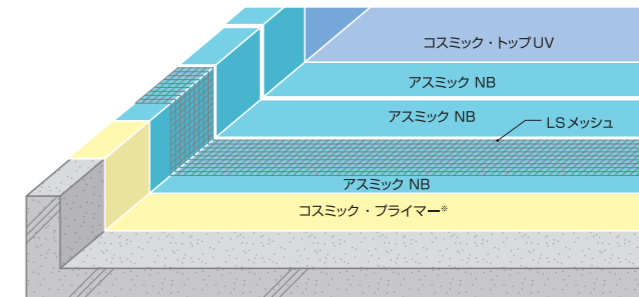
工程	使用材料	使用量
1	コスミック・エコプライマー	0.15kg~/㎡
2	アスミックNB立上り用	0.4kg/㎡
3	LSメッシュ	1.1m/㎡
4	アスミックNB立上り用	1.1kg/㎡
5	アスミックNB立上り用	1.1kg/㎡
6	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
7	アスミックボンド	0.25kg/㎡

※立上りの高さが300mm以上の場合は、ラス網とトンボを併用してください。

密着工法

一般密着工法

一般密着工法は、下地面に直接ウレタン防水層を塗布する露出用防水工法です。納まりの良さを生かした狭小部位や複雑な形状部位、既存下地がウレタン防水工法の場合の改修に適しています。近年太陽発電を屋上に設置するケースも多くなり、防水層に長期耐久性が求められる場合も多くなっています。アスミックNBの高耐久性は、新築時の防水工法としても最適な工法です。アスミックNBは、JIS A 6021 の高強度形物性を有しているため、補強布（クロス）が無くても下地のひび割れ追従性があります。更なる補強と確実な厚みを確保するために、補強布（クロス）を入れる工法も準備しています。*工程数は目安です。勾配により「アスミックNB」と「アスミックNB立上り用」とで粘度調整を行い、仕様の塗布量が塗布出来るよう調整してください。



A-20工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	2mm
2	アスミックNB	1.2kg/㎡	
3	アスミックNB	1.2kg/㎡	
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

A-20C工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	2mm
2	アスミックNB	0.4kg/㎡	
3	LSメッシュ	1.1m/㎡	
4	アスミックNB	1.0kg/㎡	
5	アスミックNB	1.0kg/㎡	
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

A-30工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	3mm
3	アスミックNB	1.8kg/㎡	
4	アスミックNB	1.8kg/㎡	
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

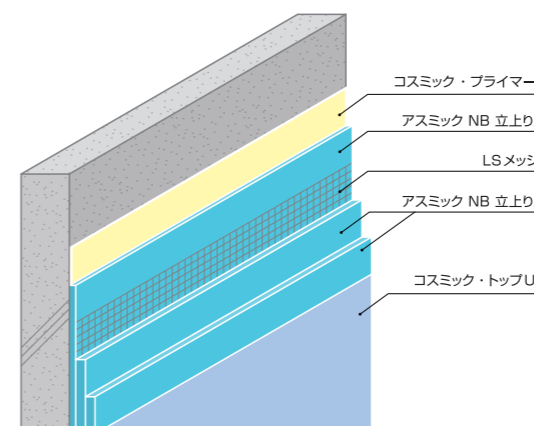
A-30C工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	3mm
2	アスミックNB	0.4kg/㎡	
3	LSメッシュ	1.1m/㎡	
4	アスミックNB	1.6kg/㎡	
5	アスミックNB	1.6kg/㎡	
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

共通立上り工法

共通立上り工法は、コンクリート下地等の平場の密着工法と通気緩衝工法の立上り部に共通する、立上り専用の工法です。ウレタン塗膜材の厚み確保または補強のためにクロスを併用することも可能です。



AT-20工法（立上り）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	2mm
2	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡	
3	アスミックNB立上り用	1.2kg/㎡	
4	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

AT-20C工法（立上り）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡	2mm
2	アスミックNB立上り用	0.4kg/㎡	
3	LSメッシュ	1.1m/㎡	
4	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡	
5	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡	
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

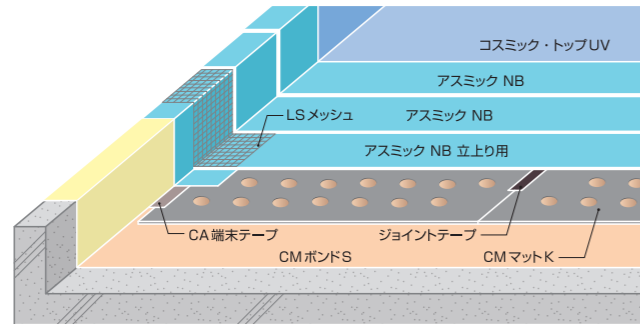
*プライマーは下地状況により選定してください。なお、下地が金属の場合は金属用プライマーを使用してください。

便所・湯沸室等

浴室・厨房・貯水槽等

CMマットK 不織布穴あき通気緩衝シート仕様

不織布に規則的にあいた穴の部分は、ウレタン防水材が下地に密着するため安定した接着力を発揮します。表層にヒートプレスしたスパンボンドに柔軟なニードルパンチ不織布のラミネートした複層構造となっているため、下地の挙動を緩衝して防水層の破断を防ぎます。



AK-20工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	CMボンドS	0.3kg/㎡
2	CMマットK ジョイントテープ	1.0m/㎡ 1.2m/㎡
3	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
4	アスミックNB	1.0kg/㎡
5	アスミックNB	1.0kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

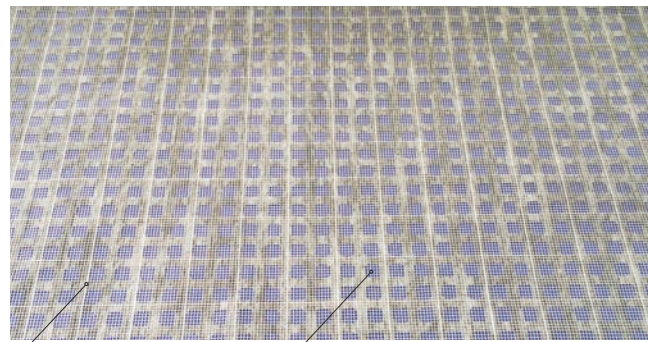
AK-30工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	CMボンドS	0.3kg/㎡
2	CMマットK ジョイントテープ	1.0m/㎡ 1.2m/㎡
3	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡
4	アスミックNB	1.6kg/㎡
5	アスミックNB	1.6kg/㎡
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

CM通気クロス 通気層付補強布仕様

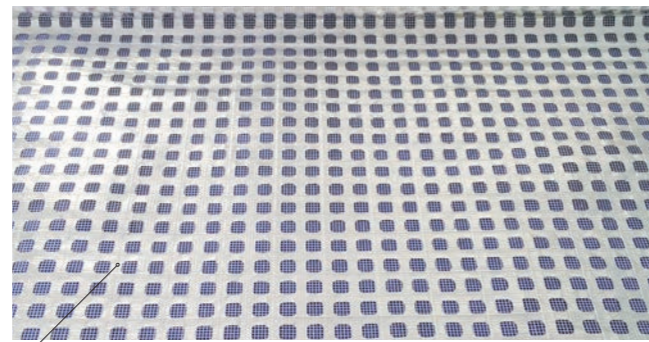
アルミ箔に規則的にあいた穴の部分は、ウレタン防水材が下地に密着するため、安定した接着力を有します。下地に接するアルミ箔は、下地と接着せず、連続した通気層となります。補強布（ポリエステルクロス）には、50mm間隔で太い繊維が格子状に組込まれ、ウレタン防水材の補強と均一な厚みの確保が図れます。また下地に接するアルミ箔によって、施工後に非破壊で厚み測定も行えます。

表面



チェッカークロス（格子状太糸） ポリエステルクロス

裏面



格子状アルミ箔（非接着部分）

AW-20工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー P	0.15kg~/㎡	2mm
2	CM通気クロス	1.1m/㎡	
3	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡	
4	アスミックNB	1.0kg/㎡	
5	アスミックNB	1.0kg/㎡	
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

AW-30工法（平場）

工程	使用材料	使用量	平均膜厚
1	コスミック・プライマー P	0.15kg~/㎡	3mm
2	CM通気クロス	1.1m/㎡	
3	アスミックNB立上り用	1.0kg/㎡	
4	アスミックNB	1.6kg/㎡	
5	アスミックNB	1.6kg/㎡	
6	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡	

CAマットSB ストライプ粘着ブチル自着層付通気緩衝シート仕様

ポリエステル不織布と粘着ブチルから構成される通気緩衝工法専用シートです。表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨にも影響を受けにくくなりました。不織布の柔軟性と粘着ブチルの接着力により各種下地に馴染みやすく、高伸張・高強度のカラーウレタン「アスミック NB」との組合せにより、下地追従性・通気性・耐久性に優れたウレタン塗膜防水層を形成します。

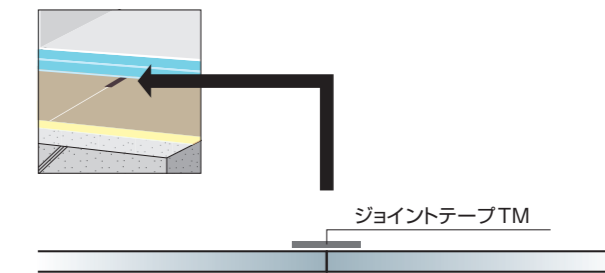
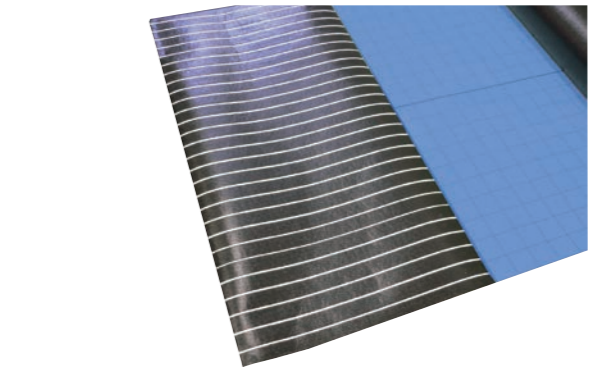
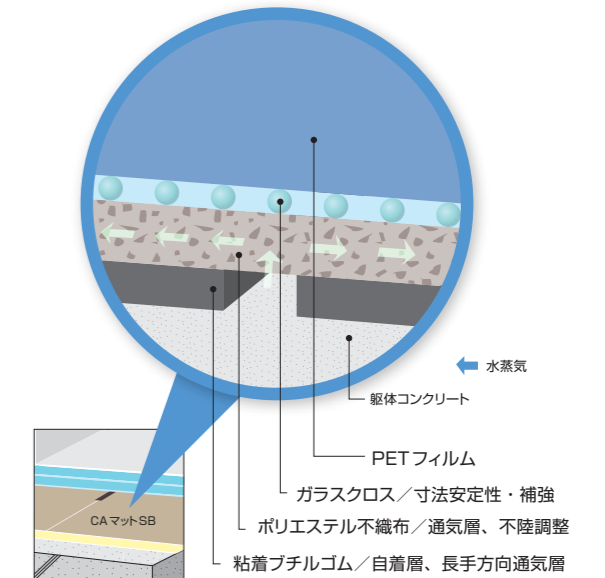
特長

- 優れた「通気」「緩衝」性能**
CAマットSBは、裏面のストライプ状の粘着ブチル層とポリエステル不織布の複合通気システムにより優れた通気性能を有します。防水下地から発生する水蒸気の拡散、脱気を円滑に行い、防水層をフクレ難くします。また、寸法安定性に富んだガラスクロス補強層と柔軟な不織布との組合せにより優れた下地追従性（緩衝性能）を発揮します。
- 各種防水下地への施工が可能**
裏面のストライプ粘着層は、各種プライマーとの組合せにより、各種防水下地への施工が可能です。柔軟な不織布により馴染みよく下地に接着します。
- 優れた施工性**
ポリエステル不織布をベースにしているため、軽量で運搬や取扱いが容易に行えます。また、表層の特殊フィルムは、十分な撥水効果があり、施工中の降雨にも影響を受けにくく、施工効率が大幅にアップします。

製品規格

項目	規格値
長さ (m)	15
幅 (mm)	1000
厚さ (mm)	不織布部 0.7 不織布+自着層 1.05
単位質量 (g/㎡)	900
引張強度 (N/cm)	たて 80以上 よこ 52以上
伸び率 (%)	たて 50以上 よこ 50以上
引裂強度 (N)	たて 40以上 よこ 50以上
折曲試験 (°C)	たて -20以上 よこ -20以上
寸法安定性 (%) (60°C, 48 hr)	たて 0.00±0.50 よこ 0.00±0.50

CAマットSBのメカニズム



AB-20工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	CAマットSB ジョイントテープTM	1.0m/㎡ 1.2m/㎡
3	アスミックNB	1.2kg/㎡
4	アスミックNB	1.2kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

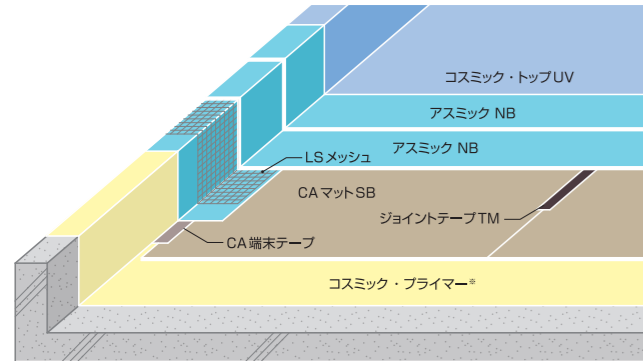
AB-30工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.15kg~/㎡
2	CAマットSB ジョイントテープTM	1.0m/㎡ 1.2m/㎡
3	アスミックNB	1.8kg/㎡
4	アスミックNB	1.8kg/㎡
5	コスミック・トップUV	0.2kg/㎡

*プライマーは下地状況により選定してください。

公共建築工事標準仕様

X-1 平場仕様



ABX-1工法（平場）

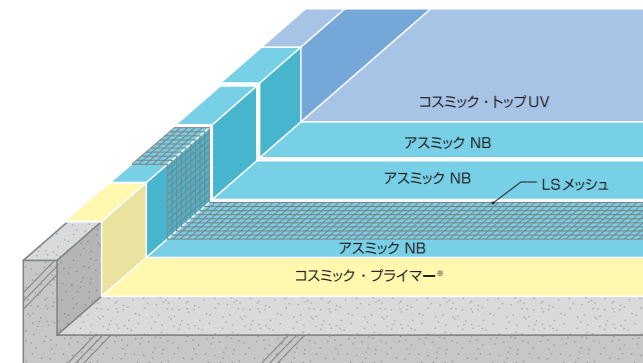
工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.2kg / m ²
2	CA マットSB ジョイントテープTM	1.0m / m ² 1.2m / m ²
3	アスミックNB	1.8kg / m ²
4	アスミックNB	1.8kg / m ²
5	コスミック・トップUV	0.2kg / m ²

*プライマーは下地状況により選定してください。

AKX-1工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	CMボンドS	0.3kg / m ²
2	CMマットK ジョイントテープ	1.0m / m ² 1.2m / m ²
3	アスミックNB立上り用	1.0kg / m ²
4	アスミックNB	1.6kg / m ²
5	アスミックNB	1.6kg / m ²
6	コスミック・トップUV	0.2kg / m ²

X-2 平場仕様

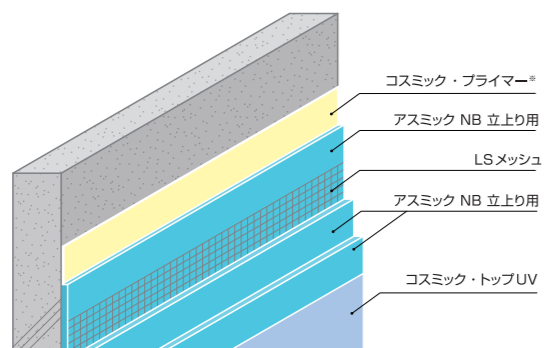


AX-2工法（平場）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.2kg / m ²
2	アスミックNB	0.4kg / m ²
3	LSメッシュ	1.1m / m ²
4	アスミックNB	1.6kg / m ²
5	アスミックNB	1.6kg / m ²
6	コスミック・トップUV	0.2kg / m ²

*プライマーは下地状況により選定してください。

X-2 立上り仕様



ATX-2工法（立上り）

工程	使用材料	使用量
1	コスミック・プライマー*	0.2kg / m ²
2	アスミックNB立上り用	0.4kg / m ²
3	LSメッシュ	1.1m / m ²
4	アスミックNB立上り用	1.0kg / m ²
5	アスミックNB立上り用	1.0kg / m ²
6	コスミック・トップUV	0.2kg / m ²

*プライマーは下地状況により選定してください。

ウレタンゴム系塗膜防水の種類及び工程

種別	X-1		X-2		X-2（立上り）	
	材料・工法	量 / m ²	材料・工法	量 / m ²	材料・工法	量 / m ²
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ^{(注)5}	0.3kg	プライマー塗り	0.2kg	プライマー塗り	0.2kg
2	ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り	3.0kg ^{(注)1, (注)4}	ウレタンゴム系塗膜防水材 塗り・補強材張り	0.3kg ^{(注)1}	ウレタンゴム系塗膜防水材 塗り・補強材張り	0.3kg ^{(注)1}
3	ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り		ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り		ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り	
4	仕上げ塗料塗り ^{(注)6}	0.2kg	ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り	2.7kg ^{(注)1, (注)4}	ウレタンゴム系塗膜 防水材塗り	1.7kg ^{(注)1, (注)2, (注)4}
5		-	仕上げ塗料塗り ^{(注)6}		0.2kg	
	平均塗膜厚	3mm	平均塗膜厚	3mm	平均塗膜厚	2mm

- (注)1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。
- (注)2. L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。
- (注)3. 立上り部は全て、種別X-2とし、工程3及び工程4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量を()内とする。
- (注)4. 表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
- (注)5. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りは、2回以上に分割して塗り付ける。
- (注)6. ウレタンゴム系塗膜防水材塗りの1工程当たりの使用量は、平場は2.5kg/m²、立上りは1.5kg/m²を上限とする。
- (注)7. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。

種別X-1において、脱気装置の種類及び設置数量は、特記による。特記がなければ、主材料の製造所の仕様による。

《参考》アスミックNB仕様の場合

アスミックの硬化物密度	
材料名	硬化物比重 (Mg / m ³)
アスミックNB	1.2
アスミックNB立上り用	1.2

したがって、m²あたりの使用量は、

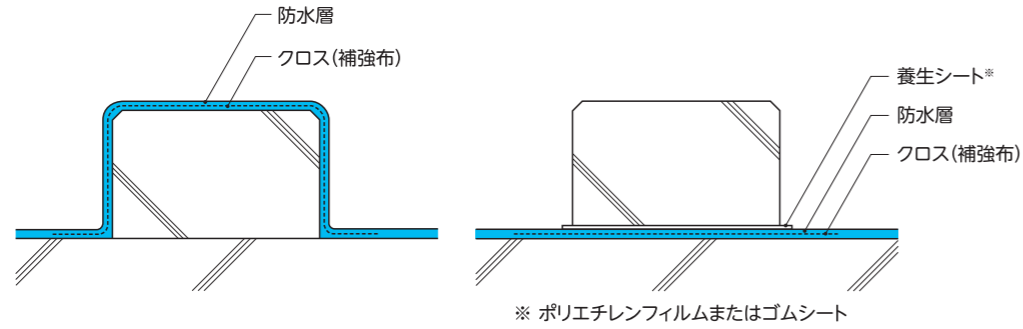
$$\begin{aligned}
 \text{使用量 / m}^2 &= \text{公共建築工事標準仕様書の量 / m}^2 \times \text{各材料の硬化物比重 Mg / m}^3 \\
 &= \text{公共建築工事標準仕様書の量 / m}^2 \times 1.2 \text{ (アスミックNB平場用)} \\
 &= \text{公共建築工事標準仕様書の量 / m}^2 \times 1.2 \text{ (アスミックNB立上り用)}
 \end{aligned}$$

となります。

納まり図例

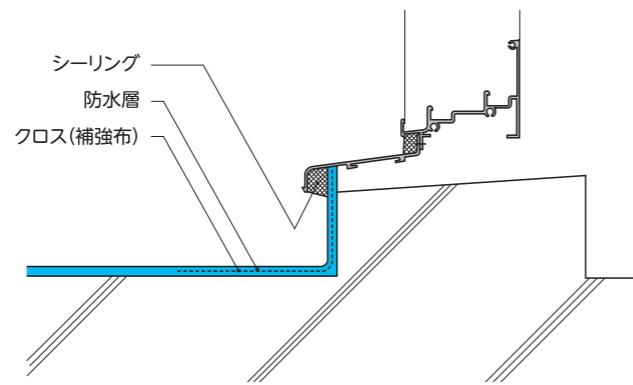
基礎廻り

出入隅部にはクロス(補強布)を入れることが必要。



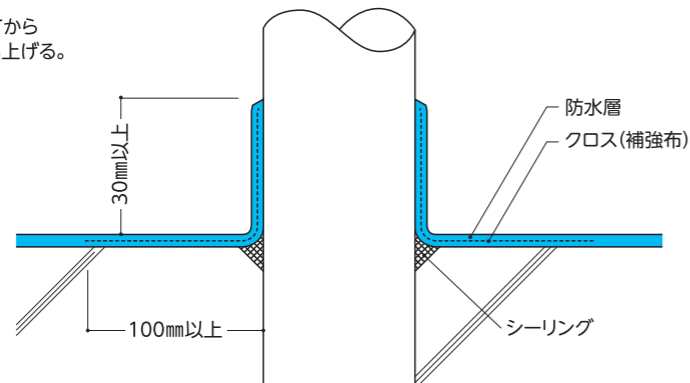
サッシ廻り

建具まで防水材を立ち上げシーリング処理を行い、コーナー部はクロス(補強布)で補強する。



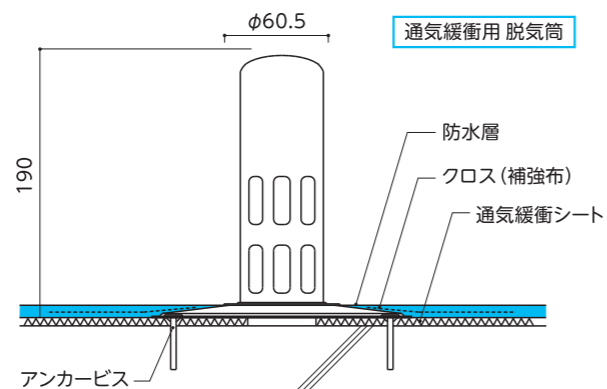
貫通パイプ廻り

パイプ廻りをVカットシール処理してからクロス(補強布)を入れ防水材を立ち上げる。

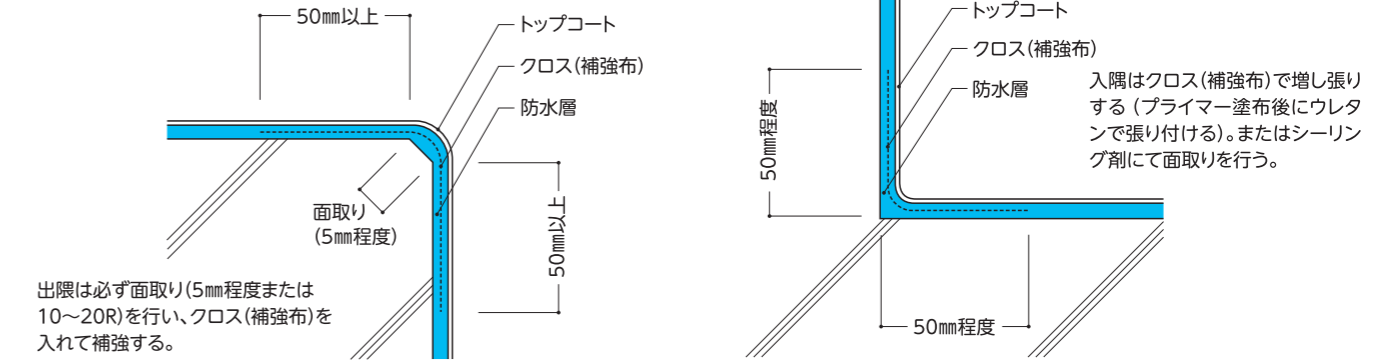


脱気筒廻り

脱気筒廻りはクロス(補強布)で補強する。



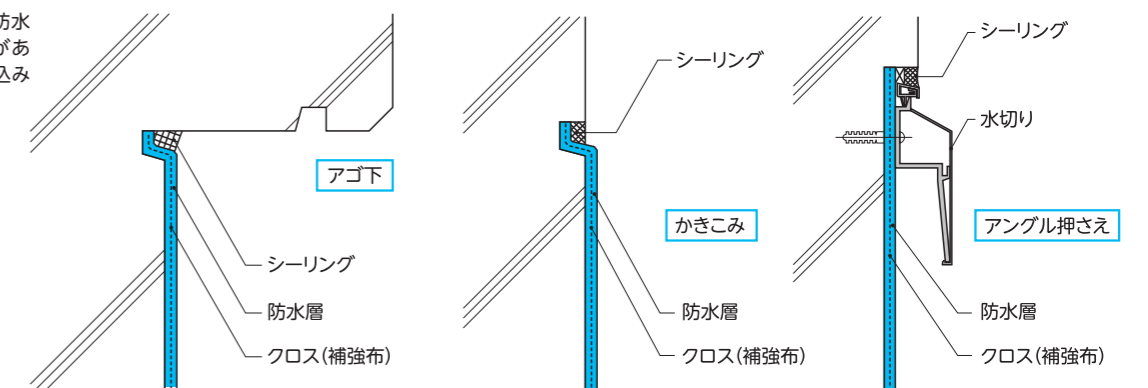
出隅／入隅



出限は必ず面取り(5mm程度または10~20R)を行い、クロス(補強布)を入れて補強する。

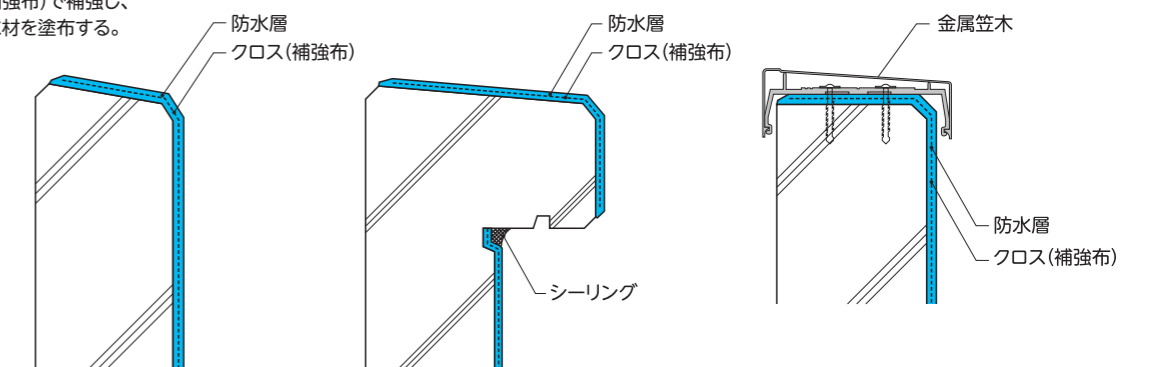
立上り

立上り部はアゴ下まで防水材を塗布し、押さえ層がある場合は躯体まで塗り込みシーリング処理を行う。



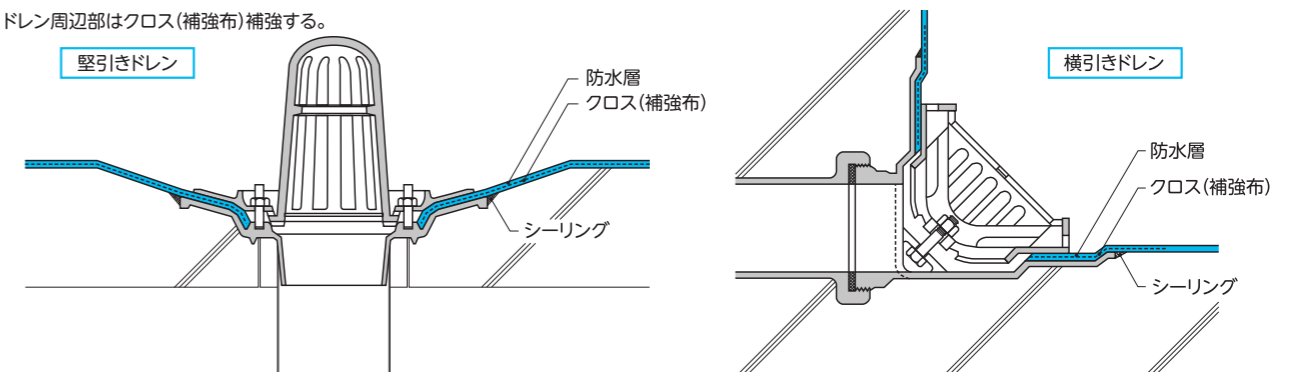
パラペット廻り

パラペット上部はクロス(補強布)で補強し、立上り部はアゴ下まで防水材を塗布する。



ドレン廻り

ドレン周辺部はクロス(補強布)補強する。



施工方法

露出アスファルト防水下地の場合

使用材料	プライマー	ウレタン塗膜防水材	トップコート
平場	アスミックアンダー	アスミックNB	コスミック・トップUV
立上り		アスミックNB立上り用	

※ジョイント処理はアスミックNB立上り用を使用






下地処理

[平場]

- トップコートが残っている場合は接着試験を行なう。
- 付着物は、ケレンして撤去し、表面の塵埃はブロアーまたは高圧洗浄機で清掃する。
- 既存アスファルト防水層の膨れ部は、下記のいずれかの処理をする。
 - ① 膨れ部を十字に切開して、裏面をバーナーで炙って張り付ける。
 - ② 膨れ部を撤去してケレン、清掃後にアスミックアンダーを混合攪拌の上塗布し、アスミック・バルーンをアスミックNB（平場・立上り用）に適量（30～40%）入れて撤去部へ充填する。

[立上り]

- 既存アスファルト防水層は撤去し、ケレン清掃する。
- 下地にひび割れ、浮きがある場合は必要に応じた処理をする。
- 降雨による雨水浸入を防ぐため、端末処理をする。

使用材料			
アスミックアンダー		2成分形アスファルトウレタン 20kg/set (主剤5kg:硬化剤15kg) アスファルト系下地への接着が良好です。 露出アスファルト防水層撤去時に当日中に塗布することで、仮防水効果が得られます。	
アスミック・バルーン		球形軽量骨材 2号 20kg/袋 (粒度4.0mm) 4号 20kg/袋 (粒度1.0mm) アスミックNB（平場・立上り用）に2号30～45%、 4号20～35%程度混入して不陸調整に使用します。 比重がウレタン樹脂と近いので、沈降しにくい骨材です。	
アスミックNB	F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用 JIS A 6021 24kg/set (主剤12kg:硬化剤12kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。	
アスミックNB立上り用	F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用 JIS A 6021 18kg/set (主剤9kg:硬化剤9kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。	
コスミック・トップUV	溶剤系 F☆☆☆☆	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート 14kg/set (主剤6kg:硬化剤8kg) 標準色5色: ライトグレー、ミントグリーン、タンブラウン、 ブラウン、ライトブラウン ※ 全て受注生産となります。特注色対応は致しません。	

塩ビシート防水下地の場合

使用材料	プライマー	ウレタン塗膜防水材	トップコート
平場	コスミック・プライマーE	アスミックNB	コスミック・トップUV
立上り	下地処理後プライマー	アスミックNB立上り用	






下地処理

[平場]

- 付着物は、ケレンして撤去し、表面の塵埃はブロアーまたは高圧洗浄機で清掃する。

[立上り]

- 既存塩ビシート防水及び押えアングルは撤去して、ケレン・清掃する。
- コスミック・エポフィラーで下地調整をする。
- 下地にひび割れ、浮きがある場合はメーカーと協議する。

使用材料			
コスミック・エポフィラー		水系エポキシ樹脂系ポリマーセメントモルタル（薄塗り） 28kg/set (A剤4kg: B剤4kg: C材20kg) 各種下地への接着が良好です。 プライマーレスでウレタン塗膜防水が接着します。	
コスミック・プライマーE	弱溶剤系 F☆☆☆☆	塩ビシート・ゴムシート・ウレタン下地用プライマー 1成分形ウレタン樹脂プライマー 14kg/缶 標準塗布量 (0.15kg~/㎡) ☞1.5～3時間 ☉1.5～12時間 塩ビシートとゴムシートとウレタン下地に兼用できるプライマーです。 弱溶剤のTXフリータイプの環境対応型材料です。	
アスミックNB	F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用 JIS A 6021 24kg/set (主剤12kg:硬化剤12kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。	
アスミックNB立上り用	F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用 JIS A 6021 18kg/set (主剤9kg:硬化剤9kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。	
コスミック・トップUV	溶剤系 F☆☆☆☆	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート 14kg/set (主剤6kg:硬化剤8kg) 標準色5色: ライトグレー、ミントグリーン、タンブラウン、 ブラウン、ライトブラウン ※ 全て受注生産となります。特注色対応は致しません。	

ゴムシート防水下地の場合

使用材料	プライマー	ウレタン塗膜防水材	トップコート
平場	コスミック・プライマー E	アスミックNB	コスミック・トップUV
立上り	下地処理後プライマー	アスミックNB立上り用	


下地処理

[平場]

- トップコートが残っている場合は接着試験を行なう。
- 付着物は、ケレンして撤去し、表面の塵埃はブロアーまたは高圧洗浄機で清掃する。

[立上り]

- 既存ゴムシート防水及び押えアングルは撤去して、ケレン・清掃する。
- コスミック・エポフィラーで下地調整をする。
- ゴムシートにひび割れ、浮きがある場合は必ず処理をする。

使用材料	
コスミック・エポフィラー	水系エポキシ樹脂系ポリマーセメントモルタル（薄塗り） 28kg/set (A剤4kg：B剤4kg：C材20kg) 各種下地への接着が良好です。 プライマーレスでウレタン塗膜防水が接着します。  A剤 B剤 C材
コスミック・プライマー E 弱溶剤系 F☆☆☆☆	塩ビシート・ゴムシート・ウレタン下地用プライマー 1成分形ウレタン樹脂プライマー 14kg/缶 標準塗布量 (0.15kg~/㎡) ☑1.5～3時間 ☉1.5～12時間 塩ビシートとゴムシートとウレタン下地に兼用できるプライマーです。 弱溶剤のTXフリータイプの環境対応型材料です。 
アスミックNB F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用JIS A 6021 24kg/set (主剤12kg：硬化剤12kg) 硬化物比重：1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。 
アスミックNB立上り用 F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用JIS A 6021 18kg/set (主剤9kg：硬化剤9kg) 硬化物比重：1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。 
コスミック・トップUV 溶剤系 F☆☆☆☆	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート ○光沢仕上げ 標準色5色： ライトグレー、ミントグリーン、タンブラウン、 ブラウン、ライトブラウン ※ 全て受注生産となります。特注色対応は致しません。 高反射・高耐久トップコートです。 高日射反射型で隠蔽性が高く、 耐候性に優れたウレタン塗膜防水材用塗料です。 

FRP防水下地の場合

使用材料	プライマー	ウレタン塗膜防水材	トップコート
平場	FUプライマー	アスミックNB	コスミック・トップUV
立上り		アスミックNB立上り用	





下地処理

[平場]

- 既存FRP防水層表層部をケレン清掃し、表面の塵埃は溶剤拭きで清掃する。
- 下地のひび割れ、浮きがある場合はメーカーと協議する。(FRPパテ等で処理が可能かどうか)

[立上り]

- 既存FRP防水層表層部をケレン清掃し、表面の塵埃は溶剤拭きで清掃する。
- 下地のひび割れ、浮きがある場合はメーカーと協議する。(FRPパテ等で処理が可能かどうか)

使用材料	
FUプライマー 溶剤系	FRP下地用プライマー 2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー 8kg/set (主剤4kg：硬化剤4kg) 標準塗布量 (0.15kg/㎡) ☑2～3時間 ☉2～4時間 下地FRPのトップがポリエステル系トップの場合は、目粗し及び清掃で施工可能です。 アクリルウレタン系トップの場合は使用できません。 
アスミックNB F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用JIS A 6021 24kg/set (主剤12kg：硬化剤12kg) 硬化物比重：1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。 
アスミックNB立上り用 F☆☆☆☆	2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用JIS A 6021 18kg/set (主剤9kg：硬化剤9kg) 硬化物比重：1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。 
コスミック・トップUV 溶剤系 F☆☆☆☆	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート ○光沢仕上げ 標準色5色： ライトグレー、ミントグリーン、タンブラウン、 ブラウン、ライトブラウン ※ 全て受注生産となります。特注色対応は致しません。 高反射・高耐久トップコートです。 高日射反射型で隠蔽性が高く、 耐候性に優れたウレタン塗膜防水材用塗料です。 

室内保護密着防水の場合

使用材料	プライマー	ウレタン塗膜防水材	トップコート
平場	コスミック・エコプライマー	アスミックNB	—
立上り		アスミックNB立上り用	アスミックボンド





下地処理

【平場】

- 凸凹や段差は、ケレン棒やサンダー等で取り除く。
- 脆弱部はケレン棒やブラシで取り除き、必要に応じてポリマーセメントモルタルで補修する。
- 1mm以上の下地のひび割れは、Uカットしてウレタン防水材を充填する。

【立上り】

- 凸凹や段差は、ケレン棒やサンダー等で取り除く。
- 脆弱部はケレン棒やブラシで取り除き、必要に応じてポリマーセメントモルタルで補修する。
- 1mm以上の下地のひび割れは、Uカットしてウレタン防水材を充填する。
- 出隅はサンダー等で3～5mmの面取りをする。

使用材料	
コスミック・エコプライマー 水系 F☆☆☆☆	<p>コンクリート・モルタル下地用プライマー 2成分形エポキシ樹脂プライマー 16kg/缶 (主剤8kg:硬化剤8kg) 標準塗布量 (0.15kg~/㎡) ⌚60分 ⌚1.0～24時間 無溶剤タイプで低臭気環境対応型材料です。 室内防水に最適です。</p> 
アスミックNB F☆☆☆☆	<p>2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用JIS A 6021 24kg/set (主剤12kg:硬化剤12kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。</p> 
アスミックNB立上り用 F☆☆☆☆	<p>2成分形ウレタン塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用JIS A 6021 18kg/set (主剤9kg:硬化剤9kg) 硬化物比重:1.2 高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含みません。</p> 
アスミックボンド	<p>インシアネート併用粘着アクリル樹脂接着剤 インシアネート併用粘着アクリル樹脂接着剤 14.7kg/set (主剤14kg:硬化剤0.7kg) アスミックNBにモルタルおよびコンクリートを施工する際に使用します。</p> 

防水施工条件

新築

信頼性の高い防水層を設置するため、防水施工の前に以下の項目について条件が満たされていることをご確認ください。

- (1) 下地の強度が十分であること。
 1. 現場打ちコンクリートは設計基準強度を満たしていること。
 2. 防水層に悪影響を及ぼさないように配筋上の配慮や調合設計上の工夫、ならびに打設後の養生等の施工管理に注意することでひび割れの発生を少なくし、分散させる。
 3. コンクリート打設後の降雨等で強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去の上コンクリートを打ち直す等の処置にて強度を復旧させる。
- (2) 下地の乾燥が十分であること。
 1. 目視にて表面が白く乾燥していることを確認する。

一般的に普通コンクリートで夏季3週間・冬季4週間程度の乾燥養生期間を目安とするが、下地構成（デッキプレートなどの片面乾燥や吸水性の高い下地等）や天候によって大きく左右されるため、防水層の施工に先立ち以下のような方法で十分に乾燥していることを確認する。
 - (a) 高周波静電容量式水分計を使用した測定。
 - (b) 不透湿シートで床下地表面を覆い周囲をガムテープ等の張付けで密封状態とし、翌日に内面の結露水の有無を確認する。
- (3) 表面が平滑であること。
 1. 平場面は金ゴテ押えで平滑とする。
 2. 浮き・表面剥離・レイタンス等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
 3. 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
 4. 立上りも平場と同様に平滑とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
 5. ポリマーセメントモルタルを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と耐溶剤性を有する材料（「ダブルテックスNEO」「Dワン・カチオン」または「ダイラックスNEO」）を使用する。
- (4) できるだけ速やかに排水させるための処置を施すこと。
 1. 水勾配は1/100以上とする。
 2. ルーフドレンや排水落し口等はスラブ面より低くし、周囲の水はけを良くしながら堅固に設置する。
 3. ドレンはアスファルト防水用またはシート防水用のツバが幅広タイプのもを使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。
 4. ドレンの排水能力は将来の改修工事を見据えて余裕を持たせた設定が望ましい。またドレン以外にもオーバーフロー管を設置し、ここから雨水が落ちてくることで使用者にドレンの目詰り等の排水機能の低下を知らせる措置が望まれる。
- (5) 下地表面がよく清掃されていること。
 1. プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
- (6) 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
 1. 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）にはウレタン塗膜防水材またはウレタンシーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 2. 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはUカット後ウレタンシーリング材を充填するか補強布の増し張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 3. 誘発目地・化粧目地には予めウレタンシーリング材を充填しておき、補強布の増し張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- (7) 入隅および出隅が適切に処理されていること。
 1. 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。

また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度/W＝5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- (8) 設備基礎関連で適切な雨仕舞いができること。
 1. コンクリート基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に載せることは極力避ける。とくに総重量の大きい設備の場合はこれを遵守する。
 2. 総重量および容積が大きい大型設備のコンクリート基礎は、将来の改修工事を見据えて再塗布が容易となるような作業空間（H450mm程度以上、推奨600mm程度以上）を確保することが望ましい。
 3. 表面は平滑とし、不具合部には適切な処置を施す。また天端は雨水が滞留せず、速やかに排水されるように水平ではなく角度を付けることが望ましい。なお入隅および出隅については（7）と同様とする。
 4. アンカー類は原則「先打ち」とし、周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとっておく。また防水層の巻上げ（天端よりH＝15mm以上）を確保する。
 5. 基礎ブロックの下やCチャン（リップ溝形鋼）・H鋼等と防水層が取合う部分には防振ゴム（t＝5mm／先端から10mm以上の余剰分を確保）を設置する。
- (9) 金物関連の取合いで適切な雨仕舞いができること。
 1. H型鋼や角形鋼管を垂直に設置する場合はベースプレートで完全に固定し、ボルトにはキャップとウレタンシーリング材充填を施す。
 2. 丸カン・手摺支柱足元等は周囲に幅・深さ10mm程度の「盗み」をとって、予めシーリング材を充填しておく。

また防水層の巻上げ（H＝15mm以上）を確保する。
 3. ウレタン塗膜防水が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー＃100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- (10) 配管および配線が防水施工に支障が無いこと。
 1. 防水層上での配管および配線の設置は防水施工の後とするか、または施工に支障が無い段階での工事とする。

また将来の改修工事を見据えて、再塗布が容易となるような措置（高さの確保、または吊上げが可能な形状と荷重）をとることが望ましい。
 2. 防水層を貫通する配管や配線は可能な限り避けること。止むを得ず設置する場合は防水施工に支障が無い位置とし、スリーブを使用してウレタン塗膜防水層100mm以上（推奨値）の補強塗りを施す。またグラつきが無いように完全に固定する。
- (11) PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
 1. 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
 2. 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントモルタルを塗布する。

また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
 3. 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、絶縁シートを張るか補強布の増し張りを施す。
 4. 表面はポリマーセメントモルタルで平滑に仕上げる。その際使用する材料は（3）-5.と同様のものとする。

改修

改修工事の場合は既設防水層の種別や劣化状況、および撤去の有無、また新設の防水仕様の種別によって下地処理の内容が異なります。

以下の項目をご参考に、現場に即した適切な処置を行ってください。

- (1) 下地の乾燥が十分であること。
 1. 新設する防水層に支障が生じないよう、高圧水洗浄後は十分に乾燥させる。

また保護仕様の場合、押えコンクリート内に残留水分があるため冬季の施工ではとくに注意し、可能な場合は洗浄に替えて機械研削を行う。
- (2) コンクリートおよびモルタル部が健全であること。
 1. 下地面は平滑にする。
 2. 浮き・表面剥離等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
 3. 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
 4. 露筋・爆裂は脆弱部を撤去し、鉄筋の錆を落した後断面修復材で処置を施す。
 5. 立上りも平場と同様に平滑にし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
 6. ポリマーセメントモルタルを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料（「ダブルテックスNEO」「Dワン・カチオン」または「ダイラックスNEO」）を使用する。
- (3) 排水勾配は排水に支障がない程度とする。
 1. 水勾配は1/100以上とする。
 2. 既設のルーフドレンや排水落し口等の周囲の水はけが著しく悪い場合は、周囲のハツリ撤去や納まりの検討を行って勾配修正を施す。
 3. 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。また設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってはオーバーフロー管の設置や既設ドレンの継続使用を行う。
- (4) 下地表面がよく清掃されていること。
 1. プライマーやボンドの接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
 2. ドレン付近に堆積した泥土やゴミ、繁茂しているコケ・植物等も完全に除去する。
- (5) 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
 1. 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）にはウレタン塗膜防水材またはウレタンシーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 2. 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはUカット後ウレタンシーリング材を充填するか補強布の増し張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
 3. 誘発目地・化粧目地には予めウレタンシーリング材を充填しておき、補強布の増し張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- (6) 入隅および出隅が適切に処理されていること。
 1. 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。

また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度／W＝5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- (7) コンクリート基礎廻りで適切な雨仕舞いができること。
 1. 架台の下部に隙間がある場合はシーリング材の充填を施す。
 2. 既設の防振ゴムが著しく劣化している場合は取替えを行うか、余剰分を切除した後入隅にシーリング材を打ち、コンクリート基礎ごと新規ウレタン塗膜層で巻き込む。また挙動部は補強布による増し張りを行う。
- (8) 金属類の取合いが適切に処置されていること。
 1. 防水層と取合う金属部分は表面の汚れ・油脂類・錆・塗料を除去し、プライマーの接着が阻害されないようにする。
 2. 発錆や腐食が進行し、著しく劣化したものは交換をする。
 3. 固定不良が無いことを確認する。また挙動が頻繁あるいは大きいと思われる箇所については、絶縁処理もしくは補強布による増し張りを施す。

塗り掛け幅は100mm以上（推奨値）を確保する。
 4. ウレタン塗膜防水が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー＃100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融亜鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- (9) シーリング材の設置が適切にされていること。
 1. 劣化が進行しているシーリング材は撤去し、打替えを行う。
 2. 防水層に支障を生じさせないように、シーリング材の種別選択は適切に行うこと。
 3. 防水層端末・金物の取合い等、必要に応じて適切にシーリング材が設置されていること。
- (10) 保護層の伸縮目地に適切な処置がされていること。

〈MGテープ〉

 1. 既設目地部のキャップおよび保護コンクリート表面より突出している目地材は撤去する。

また伸縮目地の交差部はクロスラップさせずに張り付ける。

〈MGタイト〉

 1. 既設目地材は十分に除去し、水上がりを防止するために空隙を必ず設けた上でバックアップ材を設置する。

その後充填材またはシーリング材で平滑に仕上げる。
- (11) PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
 1. 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメント系モルタルを塗布する。

また目地部についても空隙無く平坦になるように充填する。
 2. 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか補強布の増し張りを施す。
 3. 表面はポリマーセメント系モルタルで平滑に仕上げる。　その際使用する材料は（2）-6と同様のものとする。

各工法施工上および仕上りに関する注意事項

〈共通事項（施工）〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。とくに水系材料は気温によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際してはSDS（安全データシート）をよく読み、適切な扱いを行ってください。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所にて貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業員以外の立入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物（廃材・廃液）は適切に処理してください。
- 外断熱工法の施工や既設防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時季は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け（乾燥硬化前に水分の影響による現象）」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- ウレタン塗膜防水材の塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が翌日以降になる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
- 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください。種類・部位別（平場用・立上り用）・改良前後品をいわゆる「タスキかけ」で混合攪拌するのは不具合の原因となります。またウレタン塗膜防水材の平場用と立上り用を混ぜて粘度調整する場合は、必ずそれぞれのウレタンを一度混合攪拌させてからミックスするように注意してください。
- 2成分形タイプの材料攪拌は、既定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- ウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などでウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は1.5m以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- トップコートを小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

〈共通事項（仕上り）〉

- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。とくに改修工事においては既設アスファルトルーフィングやシート防水材のラップジョイント部分の凸部が目立つ場合があります。
- 既設防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーパバルコニー等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「CM骨材」を添加してください。ただしいずれも防滑性能を保証するのではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

〈密着工法〉P.7～14

- 補強布は重ね幅50mm以上で張付けてください。
- 補強布は通気緩衝シートとの重ね幅を100mm以上にしてください。

〈通気緩衝工法〉P.15～17

- 通気緩衝シートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートジョイントの隙間は2mm以内にしてください。（CAマットG以外）
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃え、ウレタン塗膜防水材塗布後に破断することがありますので、300mm以上ずらしてください。
- 通気緩衝シート張付け後は、浮きや皺を発生させないために必ず転圧ローラーで充分転圧を行ってください。
- 通気緩衝シート上はスパイクシューズでの歩行を避けてください。シートが破ける恐れがあります。
- 通気緩衝シートの張付け後、ウレタン塗膜防水材の塗布工程が翌日以降になる場合は必ずシート端部およびジョイントの雨仕舞いを行ってください。雨仕舞いを行わず雨や夜露の影響を受けた場合、次工程の乾燥養生に時間がかかったり、膨れや剥離の原因となります。
- 不織布製シート「CMマットK」「DSシート」は張付け後に降雨や夜露等で濡れないようにしてください。シート張付け後は可能な限り上層（次工程）のウレタン塗膜防水材の塗布作業を終えてください。

〈オーバーレイ工法〉

- 既存ウレタン塗膜防水層の種類や劣化状況によっては、オーバーレイ工法（ウレタン塗膜防水材の塗重ね工法）を採用できない場合があります。

製品紹介

F☆☆☆☆:ホルムアルデヒド拡散等級 ☞:乾燥時間(分/23℃) Ⓞ:接着可能時間

プライマー		
コスミック・プライマー P 溶剤系 F☆☆☆☆	<p>コンクリート・モルタル下地用プライマー</p> <p>1成分形ウレタン樹脂プライマー</p> <p>16kg/缶 標準塗布量 (0.15kg~/㎡)</p> <p>☞30分 Ⓞ0.5～24時間</p> <p>スタンダードな一般コンクリート・モルタル下地用プライマーです。</p>	
コスミック・エコプライマー 水系 F☆☆☆☆	<p>コンクリート・モルタル下地用プライマー</p> <p>2成分形エポキシ樹脂プライマー</p> <p>16kg/缶 (主剤8kg:硬化剤8kg) 標準塗布量 (0.15kg~/㎡)</p> <p>☞60分 Ⓞ1.0～48時間</p> <p>無溶剤タイプで低臭気環境対応型材料です。室内防水に最適です。</p>	
コスミック・プライマー E 弱溶剤系 F☆☆☆☆	<p>塩ビシート・ゴムシート・ウレタン下地用プライマー</p> <p>1成分形ウレタン樹脂プライマー</p> <p>14kg/缶 標準塗布量 (0.1kg~/㎡)</p> <p>☞1.5～3時間 Ⓞ1.5～12時間</p> <p>塩ビシートとゴムシートとウレタン下地に兼用できるプライマーです。弱溶剤のTXフリータイプの環境対応型材料です。</p>	
FUプライマー 溶剤系	<p>FRP下地用プライマー</p> <p>2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー</p> <p>8kg/set (主剤4kg:硬化剤4kg) 標準塗布量 (0.15kg~/㎡)</p> <p>☞30分 Ⓞ6時間</p> <p>下地FRPのトップがポリエステル系トップの場合は、目粗し及び清掃で施工可能です。アクリルウレタン系トップの場合は使用できません。</p>	
下地調整材		
コスミック・エポフィラー	<p>水系エポキシ樹脂系ポリマーセメントモルタル (薄塗り)</p> <p>28kg/set (A剤4kg: B剤4kg: C材20kg)</p> <p>各種下地への接着が良好です。</p> <p>プライマーレスでウレタン塗膜防水が接着します。</p>	
アスミックアンダー	<p>2成分形アスファルトウレタン</p> <p>20kg/set (主剤5kg: 硬化剤15kg)</p> <p>アスファルト系下地への接着が良好です。</p> <p>露出アスファルト防水層撤去時に当日中に塗布することで、仮防水効果が得られます。</p>	
伸縮目地処理材		
MGタイト	<p>発泡骨材入りアクリル樹脂ポリマーセメントモルタル</p> <p>34kg/set (A剤4kg: B材10kg: C材20kg)</p> <p>保護コンクリート仕上げの伸縮目地改修用の充填材です。保護コンクリートの熱による膨張収縮に対して、平滑性を保ちます。</p>	

防水材		
アスミックNB F☆☆☆☆	<p>2成分形ウレタン塗膜防水材</p> <p>屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 一般用JIS A 6021</p> <p>24kg/set (主剤12kg: 硬化剤12kg) 硬化物比重: 1.2</p> <p>高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。</p>	
アスミックNB立上り用 F☆☆☆☆	<p>2成分形ウレタン塗膜防水材</p> <p>屋根用ウレタンゴム系高強度形高伸張形 立上がり用JIS A 6021</p> <p>18kg/set (主剤9kg: 硬化剤9kg) 硬化物比重: 1.2</p> <p>高強度形の強度を有しながら、高伸張形の伸びを有し、耐温水性にも優れた高付加価値のウレタン防水材です。特定化学物質を全く含まません。</p>	
トップコート		
コスミック・トップUV 溶剤系 F☆☆☆☆	<p>2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート</p> <p>14kg/set (主剤6kg: 硬化剤8kg)</p> <p>○光沢仕上げ</p> <p>標準色5色: ライトグレー、ミントグリーン、タンブラウン、 ブラウン、ライトブラウン ※ 全て受注生産となります。特注色対応は致しません。</p> <p>高反射・高耐久トップコートです。高日射反射型で隠蔽性が高く、耐候性に優れたウレタン塗膜防水材用塗料です。</p>	
通気緩衝シート (通気クロス)		
CAマットSB	<p>ポリエステル不織布粘着ブチルゴム自着層ストライプ加工通気緩衝シート</p> <p>規格 幅1.0m×長さ15m/本</p> <p>重量 約13kg/本</p> <p>ポリエステル不織布のシートと粘着ブチルゴムの自着層から構成される通気緩衝シートです。表面の特殊フィルムには、十分な撥水効果があり、施工中の降雨にも影響を受けにくくなっています。各種プライマーを塗布した下地に離型紙を剥がして貼ります。</p>	
CMマットK	<p>ポリエステル不織布複合穴あき通気緩衝シート</p> <p>規格 幅1.0m×長さ25m/本</p> <p>重量 約8kg/本</p> <p>ポリエステル不織布の穴あき通気緩衝シートです。穴の開いた部分でウレタン防水材と下地が密着するため、安定した接着力が得られます。</p>	
CM通気クロス	<p>穴あきアルミ箔ラミネートポリエステルクロス</p> <p>規格 幅1.0m×長さ50m/本</p> <p>重量 約6kg/本</p> <p>アルミ箔に規則的あいた穴の部分でウレタン防水材が下地に密着し、格子状のアルミ箔の部分で通気させる粘着補強布です。[非破壊膜厚検査対応]</p>	

製品紹介

補強布		
LSメッシュ	防水層補強用ガラスクロス 規格 幅1.04m×長さ100m / 本 重量 約5kg / 本	
LSメッシュ・ソフト	防水層補強用ポリエステルクロス 規格 幅1.02m×長さ50m / 本 重量 約6kg / 本	
CMチェッカークロス	防水層補強用ポリエステルクロス 規格 幅1.02m×長さ50m / 本 重量 約3kg / 本 ポリエステルクロスに格子状に太糸があり、太糸目を消すことで塗膜厚の目安となります。	
ジョイントテープ		
ジョイントテープTM	PETフィルム付ガラスメッシュテープ 規格 幅100mm×長さ50m / 巻	
CMジョイントテープ	ウレタンコーティングポリエステル粘着テープ 規格 幅50mm×長さ50m / 巻	
端末テープ		
DFメッシュテープ	ガラスメッシュテープ 規格 幅100mm×長さ50m / 巻	
CA端末テープ	ブチルゴム粘着テープ 規格 幅100mm×長さ25m / 巻	

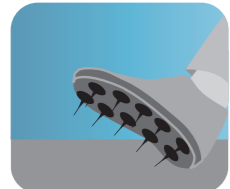
脱気装置		
ステンレスベントN	ステンレス製筒部脱着式脱気筒 平場設置用です。50～100㎡に一箇所設置します。 2個 / 箱	
ウォールベント	ステンレス製脱気装置 入隅に設置してパラペットから脱気します。 50～100㎡に一箇所設置します。 5個 / 箱	
トップコート用添加剤		
CM骨材	シリカバルーン 500g / 袋 各種トップコート1セットに対して250gを混入後、攪拌して使用します。	
接着剤		
CMボンドS	1成分形クロロプレン樹脂接着剤 15kg / 缶 CMマットKの張付け時に使用します。	
ウレタン / モルタル層間接着剤		
アスミックボンド	イソシアネート併用粘着アクリル樹脂接着剤 14.7kg / set (主剤14kg : 硬化剤0.7kg) アスミックNBにモルタルおよびコンクリートを施工する際に使用します。	
ウレタン塗膜防水材用硬化促進剤		
ソクシン剤 (環境配慮対応タイプ)	金属触媒 1kg / 缶 17kg / 缶 ウレタン塗膜防水材の硬化を早める際に使用します。 硬化剤に対し0.5%以下で使用してください。	
ウレタン塗膜防水材用増量材		
アスミック・バルーン	球形軽量骨材 2号 20kg / 袋 (粒度4.0mm) 4号 20kg / 袋 (粒度1.0mm) アスミックNB (平場・立上り用) に2号30～45%、4号20～35%程度混入して不陸調整に使用します。 比重がウレタン樹脂と近いので、沈降しにくい骨材です。	

使用上の注意事項／メンテナンス／保証

使用上の注意事項

防水施工後の使用について注意事項が記載されています。コピーの上、建物管理者様にお渡しください。

■ 次の行為は避けてください。(禁止事項)



スパイクシューズ等接地面の鋭利な履き物で歩行しないでください。



防水層は可燃性なので、火気を使用しないでください。(タココや火等)

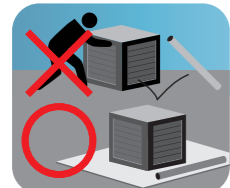


溶剤、ガソリン、不凍液等溶解力のある液剤をこぼさないでください。

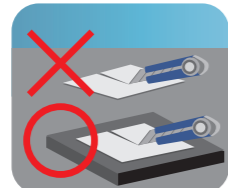


防水層を損傷してしまうため、ゴルフの練習等は行わないでください。

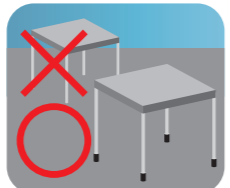
■ 次の場合は対策を打ってください。(対策必要事項)



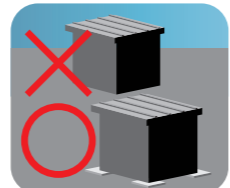
重量物を引きずったり、鉄パイプ等角の鋭利な物を落とさないでください。



カッターナイフ等鋭利な物で作業する際は合板等で十分養生し、防水層を傷付けないようにしてください。



接地面にパイプ状のイスやテーブルを置く場合は、脚先をゴムキャップ等でカバーしてください。



角のある物を置く場合は、間に合板等を敷いて養生してください。

■ 次の点には注意してください。(注意事項)



表面が濡れていると滑りやすいので、雨天および降雨後の歩行は注意してください。



クレンジング剤の防藻剤や殺菌剤の種類によっては、防水層を痛める恐れがあるため、薬剤メーカーに確認の上で使用ください。



防水層を清掃する際は、中性洗剤以外は使用しないでください。モップ等のやわらかい清掃用具で行ってください。

植木鉢を置く場合は鉢下に水が溜らぬよう設置してください。長時間の水溜りは防水層の劣化を促します。

設備工事の際、設置の都合で防水層を切断したり、あるいは傷付けて漏水事故につながるケースは少なくありません。設備工事や増設工事を実施される場合は、施工業者あるいは弊社にご相談ください。

防水層の上で犬や猫などのペットを飼わないでください。

定期的なメンテナンス・点検のお願い

防水層を良好に維持することが建物を長持ちさせるポイントです。ここでは、建物を管理される方におすすめする維持管理の方法をご紹介します。

■ 定期的にドレンを清掃してください。目安 2回以上/年

飛来した砂塵や枯葉がドレンに詰まってプール状になることがありますが、この状態で放置しておくと防水層の劣化を促進させてしまいます。お客様にとって大切な資産だからこそ、定期的な清掃をおすすめします。立地環境により一概には言えませんが、梅雨前の6月、枯葉が飛来する11月に確認するのがよいでしょう。ただし、建物の周辺に公園や田畑がある場合は飛来物が多量になるため、お客様の建物に合わせて清掃回数を増やしてください。



■ 定期的に防水層の状態を確認してください。目安 1回以上/年

防水層の定期点検は、人間に例えると定期検診と同じです。定期的に健康状態を確認し、万一、病気にかかっている場合でも早期発見・早期治療で健康を確保できます。定期清掃に合わせて、次のポイントをお確かめください。

- 防水層に破断が生じていないか。
- 防水層の端末が剥がれていないか。
- 防水層にフクレが生じていないか。
- シーリングの口開きが生じていないか。
- トップコートが消失していないか。

万一、不具合が発見された場合は、営業担当までご連絡ください。お電話で内容を確認させていただいた上、必要に応じて点検員がお伺いいたします。



■ 防水保証の考え方

- 施工に起因する場合は、工事を請け負った元請業者ならびに施工業者の責任とします。
- 材料品質に起因する場合は、材料製造業者の責任とします。
- 但し、次の場合は免責とします。
 1. 天災地変、火災、爆発、飛来物、地盤の変動等、その他の不可抗力による場合。
 2. 使用者が善良な管理者としての管理維持を行わなかった場合、また契約時の使用目的と異なる使用方法を採った場合。
 3. 防水施工業者以外の作業の作業によって生じた場合、または火災、爆発、飛来物等防水施工業者側に原因せぬことが明らかである場合。
 4. 発注者が防水施工業者の提案を拒否して採用させた設計、施工方法、資材等による工事の場合。
 5. 故障部分について、防水施工業者(防水施工業者が認めた業者を含む)以外の者が補修を行った後に生じた場合。
 6. 故障の原因究明が、通常の方法によっては困難と認められる場合。
- P.43「使用上の注意事項」を守らず、それが原因で生じた漏水事故については、責任を負いかねますので、ご注意ください。
- 防水保証の詳細については当社営業にお問合せください。

■ 防水層のメンテナンスについて

防水層は紫外線の影響により劣化進行します。早めの改修対策により経済的に防水層を維持することができます。参考に防水層の劣化のしかたと劣化度を示します。

〈防水層の劣化のしかたと劣化度〉

劣化度 1	劣化度 2	劣化度 3
トップコートの表面が紫外線劣化により白亜化。	表面のトップコートに微細な亀裂が発生。	亀裂幅が広がり亀裂の数も増加。
防水層の保護塗料であるトップコートがその機能を発揮することで、トップコート表面が粉化する現象。劣化の初期症状といえますが、ひび割れもしくは磨耗にてウレタン層が露出するまでは防水機能に大きな影響はありません。	防水層の劣化が急激に進行するシグナルともいえる時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。
<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p> <p>元の色</p>	<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p>	<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p>

劣化度 4	劣化度 5	劣化度 6
トップコートが磨耗してウレタン層が露出。	トップコートが消失し、ウレタン層の紫外線劣化が進行してクレーター状に。	ウレタン層が消失し、通気緩衝シートが露出。
ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。	この症状が床面積の高割合を占めるとオーバーレイ改修が不可能です。機械的固定工法あるいは既存防水撤去後に改修することになります。
<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p>	<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p>	<p>トップコート ウレタン防水 通気緩衝シート</p>

製品一覧

分類	品名	荷姿	種類	用途
下地調整材	コスミック・エポフィラー	28kg / set (A: 4kg・B: 4kg・C: 20kg)	水系エポキシ樹脂系 ポリマーセメントモルタル	各種下地接着材兼下地調整材
	アスミックアンダー	20kg / set (主5kg・硬15kg)	2成分形アスファルトウレタン	アスファルト系下地接着材兼下地調整材
目地処理材	MGタイト	34kg / set (A: 4kg・B: 10kg・C: 20kg)	発泡骨材配合モルタル	保護コンクリート伸縮目地改修用 充填材
ウレタン塗膜防水材 (2成分形手塗タイプ)	アスミックNB	24kg / set (主12kg・硬12kg)	2成分形カラーウレタン JIS A 6021 屋根用塗膜防水材 高強度形・高伸張形	カラーウレタン (グレー) 一般用
	アスミックNB立上り用	18kg / set (主9kg・硬9kg)		カラーウレタン (グレー) 立上り用
ウレタン塗膜防水材 促進剤	ソクシン剤 (環境配慮対応タイプ)	1kg / 缶・17kg / 缶	金属触媒	アスミックNB硬化促進剤
プライマー	コスミック・プライマー P	16kg / 缶	1成分形ウレタン樹脂プライマー (溶剤系)	コンクリート、 モルタル下地用プライマー
	コスミック・エコプライマー	16kg / set (主8kg・硬8kg) プラスチックペール缶	2成分形エポキシ樹脂プライマー (水系)	コンクリート、モルタル下地用 プライマー (低臭気)
	コスミック・プライマー E	14kg / 缶	1成分形ウレタン樹脂プライマー (弱溶剤系)	塩ビシート、ゴムシート、 ウレタン下地用層間プライマー
	FUプライマー	8kg / set (主4kg・硬4kg)	2成分形ウレタンポリエステル樹脂 プライマー (溶剤系)	FRP下地用プライマー
	コスミック・プライマー EP	12kg / set (主6kg・硬6kg)	2成分形エポキシ樹脂プライマー (溶剤系)	コンクリート、モルタル及び 金属下地用プライマー
トップコート	コスミック・トップUV	14kg / set (主6kg・硬8kg)	2成分形ハルスタイプアクリル ウレタン樹脂トップコート (溶剤系)	光沢仕上げ、高日射反射タイプ 標準色 (ライトグレー、ミントグ リーン、タンブラウン、ブラウン、 ライトブラウンのみ)
トップコート用 添加剤	CM骨材	500g / 袋	無機系特殊中空ハルーン	トップコート粗面仕上げ用骨材
接着剤	CMボンドS	15kg / 缶	1成分形クロロレン系接着剤 (溶剤系)	CMマットK接着用
ウレタン/モルタル 層間接着剤	アスミックボンド	14.7kg / set (主14kg・硬0.7kg)	イソシアネート併用粘着アクリル樹脂	モルタル・コンクリート仕上用
ウレタン樹脂増量材	アスミック・ハルーン	2号20kg / 袋 (粒度4.0mm) 4号20kg / 袋 (粒度1.0mm)	球形軽量骨材	ウレタン樹脂不陸調整用充填材

分類	品名	荷姿	種類	用途
通気緩衝シート	CAマットSB	幅1.0m×長さ15m / 本	ポリエステル不織布粘着プチルシート	自着層付通気緩衝シート
	CMマットK	幅1.0m×長さ25m / 本	ポリエステル不織布複合シート	不織布穴あき通気緩衝シート
通気性補強布	CM通気クロス	幅1.0m×長さ50m / 本	穴あきアルミ箔ラミネート ポリエステルクロス	密着併用通気緩衝シート
補強材	LSメッシュ	幅1.04m×長さ100m / 本	ガラス繊維クロス	防水層補強材
	LSメッシュ・ソフト	幅1.02m×長さ50m / 本	ポリエステル繊維クロス	防水層補強材 (立上り・役物用)
	CMチェッカークロス	幅1.02m×長さ50m / 本	ポリエステル繊維クロス (格子状太糸入り)	防水層補強材 (膜厚管理用)
ジョイントテープ	ジョイントテープTM	幅100mm×長さ50m / 本	PETフィルム付ガラスメッシュテープ	CAマットSB用ジョイントテープ
	CMジョイントテープ	幅50mm×長さ50m / 本	粘着ガラスクロス	CMマットK用ジョイントテープ
端末テープ	DFメッシュテープ	幅100mm×長さ50m / 本	ガラスメッシュテープ	CAマットSB、 CMマットK端末用テープ
	CA端末テープ	幅100mm×長さ25m / 本	粘着プチル系テープ	
脱気筒	ステンレスベントN	2個 / 箱	ステンレス製筒部脱着式	平場設置タイプ
	ウォールベント	5個 / 箱	ステンレス製バラベント脱気式	入隅設置タイプ